



「前橋めぶくフェス」では丹精して育てた野菜を販売。

買ってくれる人の反応もダイレ  
クトで、子どもたちもい  
い体験になったよう  
ですよ。

黛 あかぎキッズ  
ファームなど、本  
物に触れる体験活  
動はこれからも続  
けていきます。観光



産地を付けるのも子どもたちです。

地域づくりに詳しいメンバーも  
いるので、できれば地元と大手  
の旅行会社などと連携してモニ  
ターツアーなども企画してみた  
いですね。

### 市内に広がる幸せの種

今あるものを見つめ直し、新  
たな価値を見いだし、暮らしを  
つくる南麓の人々。

本物に触れる体験、一人一人  
顔の見える関係が、安心安全な、  
豊かで質の高い暮らしを広  
げます。赤城南麓の豊か  
な自然がもたらす幸せの  
種。それは、そこに住む  
人だけでなく市内全体、  
さらには、市外にも広が  
り芽吹きつつあるのです。

前橋で夢に挑戦  
GRASSA・澤井雷作さん(城東町三丁目)



まちなかに米・ポルトランドの pasta  
店「GRASSA」日本1号店を開店予定で、  
現在は移動販売車で県内を巡回。店では  
地元の新鮮な野菜を使用しています。  
「昨年6月まで都内のイタリア料理店  
の総料理長をしていました。美味しいも  
のがあれば人は来る。この店がにぎわ  
いの種になれたらうれしいです。自分た  
ちの世代が頑張って、前橋がもっとにぎ  
わえば、よりいいですよ」

# まっくとゆっくり

## 豊かで質の高い暮らしを南麓から

赤城南麓、そして、市内全域  
に芽吹きつつある、ゆったりと  
した、豊かな暮らし方。前橋市  
では、それらを支え、さらには  
前橋を象徴するブランドとして  
内外にPRすべく、新たな取り  
組みを始めています。

### スローシティを推進します

豊かで質の高い生活や食文化  
と環境を尊重した都市の実現を  
目的とし、本市の友好都市・イ  
タリア・オルビエート市に本部  
を置くスローシティ国際連盟。  
今年5月に前橋・赤城地域(芳  
賀・大胡・宮城・粕川・富士見  
地区の一部)が加盟を認定され



記念イベントではそば打ち体験も

ました。国内では宮城県気仙沼  
市に続き、2例目の認定です。  
これを記念し、11月4日には記  
念イベントを開催。今後は、地  
元の資源に軸足を置いた豊かな  
暮らしを推奨し、ブランド化を  
進めます。

### スローシティをリードする存在に

スローシティは伝統文化を守り、互いを  
尊重し合い質の高いまちをつくるという考  
え方。加盟市町村の人々には、自分たちの伝  
統文化に誇りを持ち、若者のための将来を  
つくってほしいと思います。前橋・赤城地  
域は歴史や伝統が豊かでスローシティの精  
神に合っていると思います。先に加盟した  
気仙沼市と共に、スローシティの考え方を  
日本でリードする役割を期待しています。



スローシティ国際連盟事  
務局長/ピエール・ジョル  
ジオ・オリベッティさん

# おしめえに

## 地域に根ざし、足元を見つめた暮らしの大切さ

豊かな自然に抱かれ、自らの足  
元を見つめ、互いを尊重し、ゆっ  
くりと豊かに暮らすことの大切  
さ、尊さ。赤城南麓はそんな生き  
方、暮らし方を私たちに教えてく  
れる、幸せの宝庫です。そして、  
車で1時間弱の距離にある南麓と  
まちなか(中心市街地)との調和  
の取れた関係は、古くて新しい、  
前橋の価値ともいえるのです。

### 「ちようどいい」を キーワードに

前橋・赤城南麓地区での人々の  
取り組みやスローシティを取り入  
れた地域づくりの可能性について、  
群馬大社会情報学部准教授の小竹  
裕人さんに伺いました。  
「成熟した今の日本には、そろ  
そろスピードではなくて、精神的  
ゆとりを大切にしたいと思ってい  
る人も多くなってきていると思

ます。赤城南麓は、元々自然と暮  
らしが調和した、ゆとりの感じら  
れる地域で、生産と消費のバラ  
ンスもうまく取れていると思います」  
そんな中でのスローシティ国際  
連盟への加盟は、ゆとりある質の  
高い暮らしを求める人への良いア  
ピールになったのではないかと、と  
話します。

「スローシティの考え方に共感  
し、地元を愛する若い人が増え、  
人材の地産地消ができていけば、  
前橋市の高齢化や人材の流出を防  
ぐことができるかもしれません」  
赤城南麓を含む前橋全体で考え  
ると、都市部と山間部はバランス  
や調和が取れていて、その関係性  
や距離感もちようどいい、と語る  
小竹さん。この「ちようどいい」  
をキーワードに、スローライフに  
価値を見いだし地域に入る若者に、  
チャレンジできるプラットフォーム  
を整える必要がある、とのこと。



群馬大社会情報学部公共政策研究室准教授/小竹 裕人さん

行政は景観保全などの適切な規  
制を行い、そこに住む人は、置か  
れた環境に甘んじることなく努力  
と誇りを持って、周辺環境と人々  
とがゆるやかにつながり暮らし  
ていく。その役割分担で地域の個性  
に磨きがかかれば、人口減少社会  
の一つの解決方法になるのです。

### 確かな暮らしを前橋から

自分らしく働き、自分らしく  
食べ、自分らしく暮らす。市民  
一人一人が、豊かな暮らしの定  
義を改めて考え、自分たちの暮  
らしに胸を張り、自分で自分の  
暮らしをつくれる。それこそ  
が、現代を生きる私たちの、本  
当の幸せなのかもしれません。  
南麓の人々のように、力強く、  
地に足の着いた市民が芽吹き、  
育つまち。ちったあスローに、  
まっくとゆっくり。そんな前橋の  
明日は、きっと明るい。

